

第3回-I：「上智大学における課題解決を促進するフューチャー・セッションの開催および
上智大学フューチャー・センター設置の可能性を模索する研究」

○研究代表者 経済学部経済学科・教授 川西 諭

○研究メンバー (教員1名×職員2名)

学事局学事センター 主幹 / 学事局学事センター

○研究テーマについて

少子化や社会環境の変化の中で、日本社会は極めて多くの社会的課題を抱えており、上智大学も同様に多くの課題を抱えている。教育の質向上の問題、組織のマネジメントの問題、そして高まる社会のニーズにいかに対応していくべきかという問題など。こうした多様な問題に対して、従来型の縦割り組織では、利害調整の難しさや、問題の先送り、責任の押し付け合いなど、前向きで本質的な問題解決にはたどり着かない傾向が見られる。こうした傾向は上智大学だけでなく、閉塞感に包まれた日本、そして世界中のいたるところで共通してみられる根が深い問題である。

このような課題を克服するアプローチとして、北欧で開発されたフューチャー・センターとそこで行われるフューチャー・セッションを上智大学に導入するための準備として今回の研究を行った。

○研究内容

①フューチャー・センターとそこで行われるフューチャー・セッションについての研究

②3回のフューチャー・セッションを開催し、教職員、学生、卒業生、経営陣など多くのステークホルダーがフラットな関係で未来志向の議論をする場を作る。

③上智大学におけるフューチャー・センターの意義や実現可能性を研究する。

④①～③をふまえ、学院に対して「上智大学フューチャー・センターの設置」の提言を行った。

第3回-II：「上智大学における発達障害のある学生への支援のあり方に関する提言－入学前から卒業まで－」

○研究代表者 学生局保健センター・センター長 米本 誠

○研究メンバー (教員1名×職員14名)

学生局学生センター 主幹 / 学生局カウンセリングセンター カウンセラー(4名) / 学生局保健センター 主任医師 / 学生局保健センター 看護師(3名) / 学生局キャリアセンター チームリーダー / 学事局学事センター センター長 / 学事局学事センター チームリーダー / 学事局入学センター / 総務局総務・経営企画グループ

○研究テーマについて

上智大学では発達障害のある学生への対応ガイドラインが無い中で対応してきたが、学生からの要望が多様化しており、それに関連する部署も多岐に渡り、多くの関係者にとって時間的・精神的負担が増大してきた。他大学では障がい者支援の理念を制定したり専門部署を設置する動きがある。また、発達障害者支援法では「適切な教育上の配慮をするものとする」という定めがある。そこで、本学における発達障害学生の支援方針、支援体制などを研究し、とりわけ、発達障害のある学生に対する修学上の合理的配慮の考え方と、実施のためのシステム作りを中心に研究を進めた。

○研究内容

本研究では下記①～④の課題に取り組むために、文献の調査、学内調査、他大学の実践の調査を行う。最終的には、本学における発達障害学生の支援方針、体制、内容について具体的に提言する。

① 学内対応の基準となる国の障害者についての法律等や方向性について調査する。

② 発達障害のある学生の修学上の支援に関する大学の基本方針を明確にし、より効率的な学内システムについて考察する。

③ 学内で決まった方針を、広く学内に周知し徹底する。

④ 教員に対する相談や助言を行うといった学内支援体制を検討する。

第3回-Ⅲ：「四谷の立地を活かした今後の学院の展開について

～女性トップキャリアの拠点化を例として～

○研究代表者 目白聖母キャンパス事務センター チームリーダー 福澤 智代

○研究メンバー (教員1名×職員8名)

総合人間科学部社会科学 教授 / 総務局企画広報グループ チームリーダー / 学事局入学センター チームリーダー /

総務局総務経営企画グループ チームリーダー / 学生局キャリアセンター / 人事局人材開発グループ / 人事局人事サービスグループ / 学事局入学センター)

○研究テーマについて

“知の拠点整備事業”の趣旨に則り、日本の政治・経済の中心地、中枢部に位置する本学の立地条件の良さを活かした、学外へ向けた新たな学院の展開を探る。外部との連携としては、地域連携、企業連携等様々な手法が考えられ、既に地方大学等での試みも一般に知られるところとなっているが、本学においては、女性トップキャリアが集う智の拠点としての上智大学の新しい展開に焦点を絞り、取りうるべき施策を検討した。本学はかねてより有する「国際性」の強みもあり、女性登用において先進する外資系企業を始めとした多くの企業・団体に女性トップキャリア人材を輩出してきた歴史がある。これまであまり表立って具体的に展開されることのなかった側面から、本学のさらなるブランド力向上を視野に入れた新しい価値の創造を目指したいと考えた。

○研究内容

- ① 女性トップキャリア層の拠点となるためには、どのようなプログラムが求められるかについて考察。
- ② 四谷という立地の可能性や、本学における取り組みや現状について考察。
- ③ 他大学の取り組み、本学在学学生、OG、社会人女性へのヒアリング調査。
- ④ ①～③をふまえ、展望をまとめ、学院に対して提言を行う。

第3回-Ⅳ：「高等教育機関の経営戦略分析に関する基礎研究～戦略とは何か～」

○研究代表者 総務局総務・経営企画グループ 後藤 穂高

○研究メンバー (教員1名×職員5名)

文学部新聞学科 教授 / 総務局学院改革推進室 グループ長 / 学生局学生センター チームリーダー / 総務局学院改革推進室 / 学生局学生センター

○研究テーマについて

大学経営は言うに及ばず、国家、軍事、企業においても戦略は存在する。本論は、「戦略とは何か」についての基礎研究である。そして、基礎研究の成果として得られた結論を本学に当てはめた場合、どのような提案ができるかについて述べる。

この目的に沿って、本論ではまず「戦略」についての議論をひも解き、戦略の概念枠組みについて考察を行う。次に、概念枠組と「戦略の定義」に基づき、高等教育機関における戦略の必要性の再確認と、戦略立案事例としてのIR機能を俯瞰した上で、国内外の事例を紹介する。

これ等を踏まえた上で、戦略立案機能を本学に設置するモデルを示し、検討する。

○研究内容

- ① 戦略の概念整理から、戦略とは何か、を再定義し戦略の必要性について検討する。
- ② 戦略に必要な取り組みについて分析し、その中で「情勢判断」を行うためにIRに焦点を当て、アメリカの大学の事例に触れる。
- ③ 国内の大学における経営戦略を担う組織・体制の事例に触れ、「経営重視型」と「教学重視型」に分類する。
- ④ 本学における戦略立案につき、「経営重視型」と「教学重視型」のモデルを示す。

第3回-V：「EMIR (Enrollment Management / Institutional Research)の研究」

○研究代表者 人事局事務システムグループ 相生 芳晴

○研究メンバー (教員2名×職員6名)

短期大学部 学長 / 学事局入学センター センター長 / 総務局学院改革推進室 グループ長 / 総務局学院改革推進室 チームリーダー(2名) / 人事局人材開発グループ チームリーダー / 人事局人事サービスグループ

○研究テーマについて

「大学改革実行プラン」では、大学ガバナンスの充実・強化を課題とし、大学改革を促すシステム・基盤整備の必要性、大学情報の公表の徹底、評価制度の抜本改革、客観的評価指標の開発に言及している。こうした動きに対応するには、自らの現状を把握するために、情報を収集・蓄積・整理・加工・分析・発信し、教育や経営の改善に向けて企画・立案・実践する体制が不可欠であり、米国の大学で発達しているIR(Institutional Research)機能が今後求められると考えられる。また、学生の満足度に着目し、入学前から卒業後までの総合的な学生支援策EM(Enrollment Management)にIRを効果的に活用している大学も出始めている。本研究においては、山形大学等の国内先進事例や海外事例を調査し、本学(上智大学)においてもデータの一元管理により、情報の収集・蓄積・分析・発信力を強化し、客観的数値に基づいた戦略的意思決定を支援する仕組みを如何に構築していくか、検討した。

○研究内容

- ① 研究メンバーがそれぞれ各種文献を持ち寄り集合した研究会の開催。
- ② 学外セミナーへの参加、他大学への訪問調査。
- ③ 上記をもとに上智学院におけるIRの実践方法、推進体制と今後の方向性について考察。

※研究代表者・メンバーの所属、職名等は研究報告当時のものになります。